

佐藤広行^{a,b}: ミズバショウ (サトイモ科) の 1 新品種

^a 北海道大学総合博物館

^b 一般社団法人九州オープンユニバーシティ

Hiroyuki SATO^{a,b}: A New Form of *Lysichiton camtschatcensis* (*Araceae*)

^aThe Hokkaido University Museum, North 10 West 8, Sapporo, 060-0810 JAPAN;

^bResearch Department, Kyushu Open University, 744, Motoooka, Nishi-ku Fukuoka, 819-0395 JAPAN

E-mail: hiro@museum.hokudai.ac.jp

(Accepted on April 23, 2021)

Summary: *Lysichiton camtschatcensis* (L.) Schott (*Araceae*) f. *pennatus* Hir.Sato, f. nov. is described from Hokkaido, Japan. This form is characterized by having white appendages around florets.

ミズバショウ *Lysichiton camtschatcensis* (L.) Schott(サトイモ科 *Araceae*) は本州 (兵庫県および中部以北の日本海側)・北海道, 千島・カムチャツカ・サハリン・ウスリーに分布する多年草で日本の代表的な湿原の植物の一つであり (邑田 2015), 種子繁殖と仮軸分岐による栄養繁殖をすることが知られている (邑田 1997, 田中 1997).

2007年4月, 与那覇モト子氏は北海道石狩市のマクンベツ湿原において, ミズバショウの肉穂花序に, 仏炎苞に似た質の白い付属片 (以降「付属片」と称す) が付いている個体群を発見した. 以来, 著者は与那覇氏と共に観察を続け (Fig. 1A), その結果を Sato (2017) で報告した. 2015年には追跡していた個体に付属片が見られなかったことから, Sato (2017) はこの性質を河川の氾濫の影響による一時的な奇形と判断した. しかしながら, 2016年以降は安定して肉穂花序に白い付属片をもつようになり, 札幌市内の湿地帯でも同様の変異個体が見られた (Fig. 1B, C). 付属片の形状について, Sato (2017) は雌しべや雄しべ, 花被片が仏炎苞のように変形していると報告したのに対し, 酒井 (2020) は北海道松前市の丘陵地帯にある湿性地でよく似たミズバショウの奇形を発見し, 付属片が花の間から出て, 花を取り囲むように付くことを報告した.

あらためてこの付属片の付き方を観察すると, 同一個体の肉穂花序において, 付属片の基部を含めた花原基全体が白色の組織に変形する場合と, 酒井 (2020) が指摘するように花と花の間の基部から付属片が発生し, 花を囲う場合があることが分った (Fig. 2). Sato (2017) と酒井 (2020) が報告した付属片の変異は同一個体上で現れることから, 肉穂花序に付属片をもつ同一の変異型と見なした. これまでの調査によりこの変異型は, 一過性の奇形ではないこと, 複数の地域に広がっていることが明らかとなったので, 1 新品種として記載する.

Lysichiton camtschatcensis (L.) Schott in Oesterr. Bot. Wochenbl. 7: 62 (1857).

f. *pennatus* Hir.Sato, f. nov.

This new form is distinguished from the typical form by the spathe-like appendages on and between the florets on the spadix.

Type: JAPAN. Hokkaido. Ishikari-shi, the Makunbetsu moor, 27 April 2015, H.Sato, M.Yonaha, S.Kuroda, T.Katurada & Y.Kanagami 1836 (SAPS 48596–holotype; Fig. 3).

New Japanese name: Hagoromo-mizubashō.

新和名: ハゴロモミズバショウ (羽衣水芭蕉)

Additional specimens examined: JAPAN. Hokkaido. Matsumae-gun, Matsumae-cho, Ikenotai Fureai Park, near the entrance pond, 17 Apr. 2016, M.Sakai s.n. (SAPS).

白い付属片に変異しているのは花の全体または一部, あるいは花の周囲の組織で, 付属片を付けない他の多くの花は正常であり種子繁殖には問題

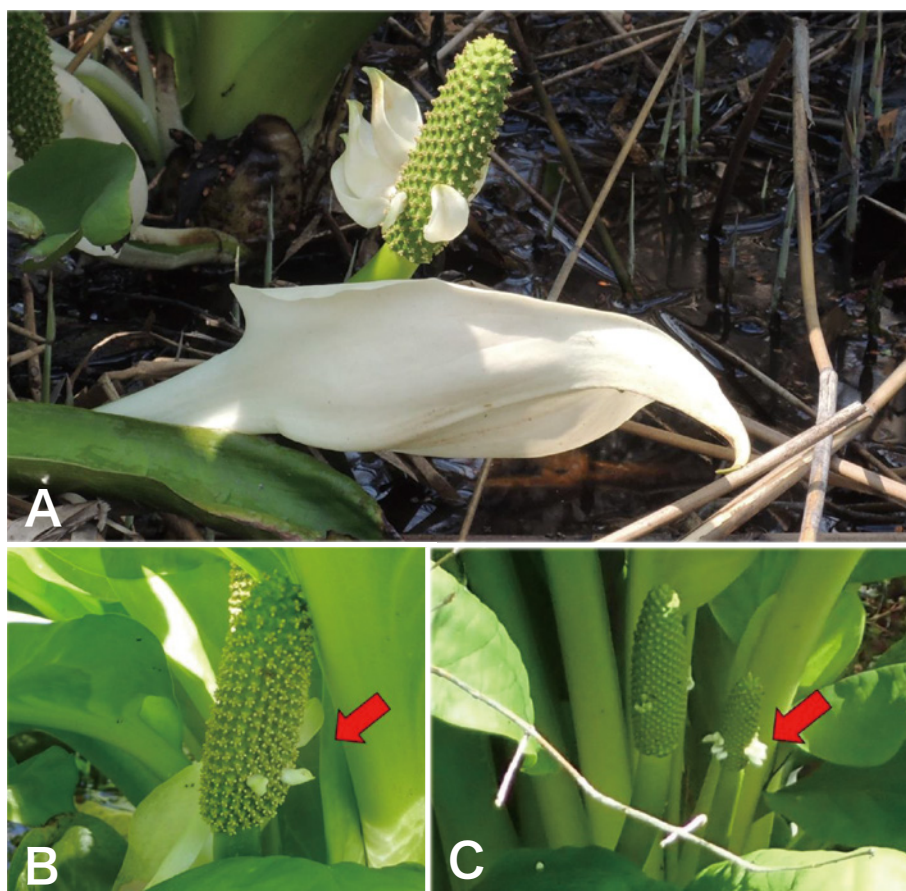


Fig. 1. *Lysichiton camtschatcensis* (L.) Schott f. *pennatus*, a new form. A. Makunbetsu moor, Ishikari-shi, Hokkaido Pref., Japan (on 3 May 2014). B. Tonden windbreak wetlands, Sapporo-shi (7 May 2018). C. Botanic Garden, Hokkaido University, Sapporo-shi (8 May 2018).

図1. ハゴロモミズバショウ。A. 石狩市マクンベツ湿原 (3 May 2014)。B. 札幌市屯田防風林湿地帯 (7 May 2018)。C. 北海道大学植物園 (8 May 2018)。

がないことを示唆している。2015年に付属片が観察できなかったのは開花期の気温が低かった可能性があり、気温が高い年には肉穂花序の付属片が大きくなる傾向があるように思われる。

ハゴロモミズバショウについてさまざまな情報をお寄せいただいた、与那覇モト子氏及び酒井 信氏に感謝申し上げます。現地調査に御協力頂いた黒田シヅ、桂田泰恵、金上由紀、高橋美智子氏らに感謝申し上げます。さらに松前町産の標本をご提供いただいた酒井 信氏にも感謝申し上げます。また、九州大学の矢原徹一名誉教授には御助言頂きました。記して感謝申し上げます。本研究の一部

は、(独)環境再生保全機構の環境研究総合推進費(JPMEERF20204001)による補助を受けました。

摘 要

ミズバショウ(サトイモ科)の変異型を、北海道石狩市マクンベツ湿原(タイプ産地)と松前市の池の岱産の標本にもとづいて、新品種ハゴロモミズバショウ *Lysichiton camtschatcensis* (L.) Schott f. *pennatus* Hir.Sato として記載した。ミズバショウの肉穂花序にある花または花の周辺の組織の一部が、仏炎苞と同質の白い付属片になっている。